

令和 4 年度事業報告

学校法人 田中千代学園

〔 寄附行為改正 〕

私学法改正案が今国会を通過し、令和 7 年度実施ですので、理事会・評議員会のあり方を、ガバナンス中心に変更するのは本年度中準備、令和 6 年度改正の方向とします。評議員会構成及び評議員会議長の在り方は早い段階で進めたいと思います。

〔 人事制度対応及び寄付行為改正を視野に各種規則改正 〕

副業認定、70 歳まで継続雇用努力義務等を想定し、各種考課導入等の基準が必要となります。各種労働スタイル含め賃金システム導入へ体系作り含め、客観性ある各種制度を実施します。同時に人事制度、関連規定を順次改正し令和 4 年度に骨格はできました。

〔 資産運用の方向性 〕

私学法改正に伴い資産運用を安全性重視に切り替え、他学校法人の運用情報等を参考に、比較的安全性が高いファンドラップ型の運用に切り替えました。長期的視野での運用形態を理事会・評議員会了承による進行判断としました。

〔 将来展望 〕

服飾専門課程は厳しさを増し、AI デジタル化は進み、業務はオペレーション主流、販売もネット取引中心で、それを出来ない生き残れません。団塊世代消滅と 18 年後の出生数半減予測から専門学校入学者は大量減員危機で、次を見据えた方策は必須です。

〔 学校の今後 〕

渋谷校単独では平成 24 年度入学者数 70 名定員充足率 58.3%がピークで、平成 29 年度入学者数 17 名定員充足率 14.2%に生徒数激減しました。文化専門課程導入でなんとか生き残り、令和 5 年度入学者数は 110 名定員充足率 69%で赤字とは言え当学舎での最高定員充足率となりました。又、服飾専門課程はオリジンとして残す方向を模索します。教育の継続と組織維持と言う社会的責務に配慮すると新課程導入等更なるシフトチェンジを図らない限り最悪の想定が待っています。学校は許認可事業で新課程導入まで 3 年は掛かります。現行専門 2 課程を継続し、新たに工業分類建築専門課程申請を決定しました。この領域の専門学校入学者数は昨年若干マイナスしましたが 10 年経過では志願者増で推移し、服飾専門課程を上回る状態です。又、専門学校数は服飾専門課程より少なく、国交省は 1 級建築士増に舵を切りました。この建物が出来てから最高入学者となった今だからこそ各種方策を練った中からの選択を信じ進むべきと判断しました。

以上